

都市局長賞

都市計画道路 水戸駅千波線道路改良事業

(表彰対象者：茨城県土木部都市局公園街路課)

表彰の理由

軟弱地盤の改良工法、交差点処理などの構造に工夫が見られるほか、偕楽園公園の歴史的な景観にも配慮したデザインにより、公園と一体となったゆとりと潤いのある都市空間が創出された。

事業のあらまし

本事業は、偕楽園公園、千波公園において開催された第10回全国都市緑化いばらきフェア会場へのアクセス道路として、水戸市の南北軸である水戸駅千波線を改築したものである。当区間の大部分は、軟弱地盤であり、また低地帯であったため、地盤改良工（深層混合処理）を施工し、さらに増水時の道路水没対策として道路計画高を最大で約1.5m高くした。また、公園区域内を通過する道路のため、特に景観との調和を重視し、橋梁部、歩道部、照明、信号等についてはハイグレードのデザインとした。

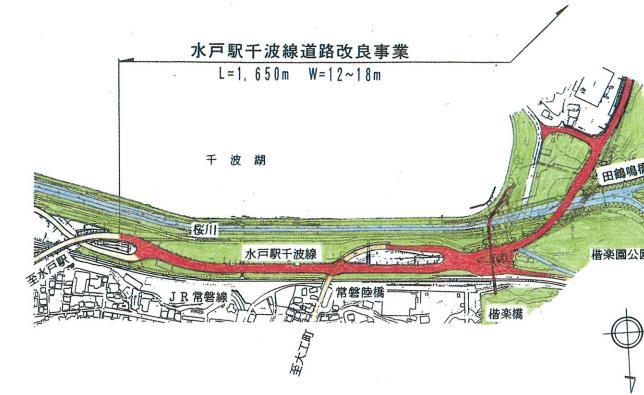
- 延長：1,650m
- 幅員：12~18m
- 事業費：6,100百万円
- 事業実施期間：平成2年8月～平成5年3月



常磐陸橋側より交差点方面を望む。道路線形、交差点処理が改良され、流れがスムーズとなった。

都市計画道路 3・4・15号水戸駅千波線道路改良事業
千波湖周辺区間概要図

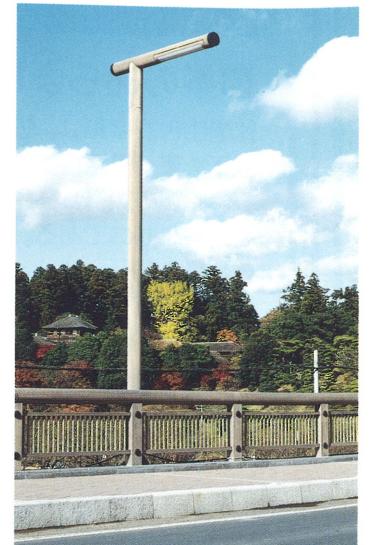
S=1:6,000



アルミ製桁化粧。好文亭の屋根に使われている桧葺き模様をデザインした。表面は塗装処理。



親柱。好文亭寿楽棲富士見窓からデザインした。



照明灯、高欄。好文亭の桧製丸柱、竹製のめり窓等を参考にデザインした。



田鶴鳴橋。左後方に見える好文亭をイメージし、地味ながらも風情あるたたずまいをコンセプトとした。



改良前の交差点。変則交差点のため、朝夕のラッシュ時には著しい渋滞が生じていた。

事業遂行上の工夫

本路線の千波湖とJR常磐線に挟まれた部分は、非常に軟弱な地盤であり地盤改良工（深層混合処理CDM工法）を施工したが、施工中に地盤の側方移動のためJR常磐線に予測以上の影響を与え、その対策とその後の施工方法についての検討や協議調整に苦慮した。